

日本の展望委員会「地球環境問題分科会」（第6回）議事要旨

1. 日時 平成21年5月25日（月） 15:00-17:15
2. 場所 日本学術会議6階 6-C（1）会議室
3. 出席者 河野長（委員長）、鷺谷いづみ（副委員長）、高村ゆかり（幹事）、淡路剛久、佐藤文彦、前田正史、村上周三、山地憲治、山本眞鳥
欠席者 中島映至（幹事）、植田和弘、岡田清孝、佐藤薫、松井孝典、安成哲三
4. 議題
 - （1）前回議事要旨（案）の確認
 - （2）報告書（草案）の作成について
 - （3）その他
5. 資料
 - 資料1 前回（第5回）議事録要旨（案）
 - 資料2-1 起草分科会あて報告書骨子原稿
 - 資料2-2 起草分科会あて報告書骨子原稿（佐藤薫先生担当分）
 - 資料2-3 起草分科会あて報告書骨子原稿（山本先生担当分）
 - 資料2-4 起草分科会あて報告書骨子原稿（有害物質）（高村先生担当分）
 - 資料2-5 起草分科会あて報告書骨子原稿（統合的アプローチ）（高村先生担当分）
 - 資料2-6 起草分科会あて報告書骨子原稿（鷺谷先生、佐藤文彦先生、安成先生、河野先生担当分）

6. 議事

- （1）前回議事要旨（案）の確認
 - ・「シュミレータ」を「シミュレータ」に修正したうえで、前回議事要旨を確認し、採択した。
- （2）報告書（草案）の作成について
 - ・配付資料確認の後、資料2-6をベースに、目次の項目の順に議論を行うこととなった。討議内容は以下の通り。
 - ・資源、経済成長と decoupling について記載すべき（村上）
 - ・議事録案の送付とともに植田先生に依頼をしたが、状況を確認する。村上先生指摘の趣旨の記載については、II の冒頭に入れる必要がある。記載するということはここで合意できていると思うので、植田先生にあらためて依頼する。村上先生からも文案をいただく（河野）

<まえがき>

- ・1頁目の「心理学」を「哲学」にしてはどうか（山本）
- ・そのように修正する（河野）

<I. (1) 地球温暖化>

・地球温暖化について特に追加すべき点について意見はなかった（なお、I. (3) 有害物質による環境汚染に関する討議の中で、二酸化炭素回収・貯留技術（CCS）についての記載を温暖化の項目に入れるという議論となった）

<I. (2) オゾン層破壊>

・温暖化問題と同列の比重が置けるか。オゾン層破壊の問題の比重の置き方についてはもう少し検討が必要か。佐藤薫先生、安成先生お二人の案を組み込んでまとめることができそう（河野）

<I. (3) 有害物質による環境汚染>

・中国の状況がひどいことなど指摘されるが、他に指摘すべきところはあるか。もっと恐ろしい言及すべき問題があるか（河野）

・黄砂に伴う大気汚染物質の沈着の可能性が指摘されている。砂漠化との関係もある。これらについて記載してはどうか。こうしたリスクが十分評価されていなければその評価の必要について言及してはどうか（鷲谷）

・中島先生が詳しいのではないか（前田）

・近年ポパール事件のような事故はあるか。被害の程度は、途上国と先進国で違うのか（河野）

・放射性物質が入っていない（村上）

・大気、水を介して global に広がるものに対象を限定してはどうか（鷲谷）

・原子力事故、海洋への放射性物質の海洋投棄などによる放射性物質による環境汚染のリスクに関して記載を入れる（河野）

・CCS の展開が想定されているが、それが及ぼす環境リスクについてわかっていないことも多い。地中貯留、海洋貯留の利用が検討されているということをいずれかに記載しておく必要があるのではないか（佐藤文彦）

・有害物質による環境汚染の項目で取り扱うというよりは、温暖化か、資源・エネルギーの項目で言及するのがよいでは（高村）

・CCS の何について書くのか。地中貯留については国際条約も認めている（山地）

・評価というよりは、このような技術についてさらに研究が必要ということ、温暖化の項目に記載する（河野）

<I. (4) 生物多様性・生態系>

・何を学術会議として提言するかが明らかではないのではないか（河野）

・分析、評価がまだまだなので、これを機会にスタートする。あまり知られていないので、現状、手法自体をかなり書いている（鷲谷）

・具体的な問題で焦点を置くものはないか（河野）

・重要な問題が数々ある。複雑で絡み合った問題をどのように解いていくかそのものが重要（鷲谷）

- ・今後学術会議として何をすべきかに焦点を置く（山地）
- ・I では、何をすべきかについて書かないということではないか（村上）
- ・個別の問題に関連して何をすべきか、課題を書いてもよい（河野）
- ・ミレニアム・アセスメントを基礎にするということによいか。確立された真実として受け入れられているか（前田）
- ・ミレニアム・アセスメントは、評価の手法と暫定的な評価結果を書いている（鷺谷）
- ・確立したものであれば、ミレニアム・アセスメントについて詳述する必要はないのでは（前田）
- ・分析や評価を強化する必要がある、という点を明確にする（鷺谷）
- ・過去の知恵のほりおこしなども有用（前田）
- ・学術が閉じているので、複雑な系を総合的に見る必要がある。現在の行動にとって将来がどう変わるかというアプローチを提示している。環境アセスメントも、生態系を考慮するのであれば、手法の見直しが必要（鷺谷）
- ・そのようなことを書いていただきたい（河野）
- ・ミレニアム・アセスメントについてはもう少し分量を減らしていただきたい（前田）

<II. (1) 人口問題>

- ・エコロジカルフットプリントを使って地球への圧力を示してはどうか（鷺谷）
- ・物理的限界、静的限界は示される（前田）
- ・人口は一世代くらいでコントロールでき、他のものよりもコントロールがしやすいとも言える。人の福祉を考えたら、適正な人口というのはある程度整理できる（鷺谷）
- ・物理的容量を超えているので、人口のコントロールが必要（河野）
- ・強力な規制をしなくても女性の地位の向上などのやり方で解決できるところがある（鷺谷）
- ・村上先生からも以前指摘があったが、人口の物理的限界とともに都市への人口集中について書いてはどうか。都市への集中が汚染など問題を引き起こす要因となっている（高村）
- ・人口の総数の問題と分布の問題を取り扱う（鷺谷）
- ・人口のところで書くのがよいか。「都市化」といった項目があったほうがよいのでは（山本）
- ・とりあえず人口の項目で書いてもらい、後で適切と思われれば、新たな項目を立てる（河野）

<II. (2) 食料・農林水産業>

- ・食料安全保障のシンポジウムが予定されているのでその成果を入れてはどうか（鷺谷）
- ・7月という報告書締め切りのタイミングがあるが、最終的には、2010年4月の総会時に確認することになるから、修正が時間的に可能で、必要であれば記述を修正する（河野）

<II. (3) 資源・エネルギー>

- ・持続可能分科会で取り扱っている内容とかなり重複する（前田）
- ・重複はある程度あってもよい。当初は相互の連携という話はあったが、なかなかできていない（河野）

- ・「貧困国」を「途上国」に修正。「夜間の子女教育の可能性」とはどういう趣旨か（山本）
- ・以前インドネシアの事例で、太陽光パネルの効用は、夜間の子女教育に役だった。分散型電源の効用を示す事例。表現は検討する（前田）

<III. (1)地球環境問題への統合的アプローチ>

- ・特に意見はなかった

<III. (2)アジアにおける日本の学術の貢献>

- ・安成先生は、「アジア」をタイトルにもお出しになりたいのではないか。タイトルを「日本の学術の国際的貢献、とりわけアジアにおける貢献」といった形でまとめてはどうか（山本）
- ・山本先生の記述と、安成先生の記述を統合して文案にする（山本、河野）

<III. (3)継続的な環境観測とその高度化>

- ・（3）継続的な環境観測とその高度化について、単独項目のままにするか。どのように項目として整理するかは検討を要する（河野）
- ・観測基盤がある場合とそうでない場合で重点の置き方は異なるのではないかな。コストパフォーマンスの問題などもある（鷺谷）
- ・そのような意見を反映した修正をしてもらう（河野）

<III. (4)上記の課題遂行のための研究・教育基盤の課題>

- ・途上国の人材育成といった視点を記載したほうがよいのではないかな（淡路）
- ・（2）で扱われる問題のようにも思われる。（4）途上国の将来の人材を日本で受け入れる教育基盤を充実させる趣旨か（高村）
- ・途上国の将来の人材を日本に受け入れる教育基盤の課題として書き込む（山本、河野、前田）
- ・問題があるのは理解するが、個別の科目名の記載はやめる（前田）
- ・「地球環境の理解に資するように」といった表現で（河野）

<III. 「参加」の問題>

- ・「様々な主体の参加と協働」をタイトルにしてはどうか（山本）
- ・企業、経済主体の役割、法制度としくみについて付加してはどうか。文案を高村が作成してみる（高村）

<報告書案作成の作業について>

- ・一つのファイルにアクセスして、みなが手を加えて修正していくような仕組みにしたほうがよい（山地）
- ・レポジトリがはっきりしていなかったなので、とりあえず今日終わった段階でとりまとめるので、それからその作業を開始する（河野）
- ・様式については、本日事務局から配布された報告書様式に基づいて作成いただきたい。脚注

や本文に記載するのではなく、参考文献、参考資料は最後に記載（河野）

＜今後の進め方＞

- ・河野委員長から今後の進め方について以下のように提案され了承された。
- ・会合はおそらくあと1回。7月の初め頃になろうか。前田先生の協力を得て次回の日程を調整し設定する。できればそれまでにメールでやりとりをして書き直し作業を進めたい
- ・意見が出されたように、修正作業が追跡できるようにする
- ・報告書案の統合版には version ナンバーをつけていく
- ・報告書案全体について一度にコメントの対象とするというよりも、順次、項目と期限を決めてメールベースでコメントをもらってまとめていく形がよいのではないか
- ・まずは、本日までに提出されたものを取り急ぎとりまとめてみなさんにお送りする
- ・本日の議論を受けて修正したものを担当者から提出してもらい、それを基礎にして、メールベースでの議論＋修正作業を進める。
- ・議論＋修正作業の基礎となる報告書案作成のために、6月第一週（6月5日）までに、まだ文案が出されていないもの、本日の議論を受けてコメントを反映したものを、役員、少なくとも河野先生まで送付いただきたい

(3) その他

- ・特になし

以上